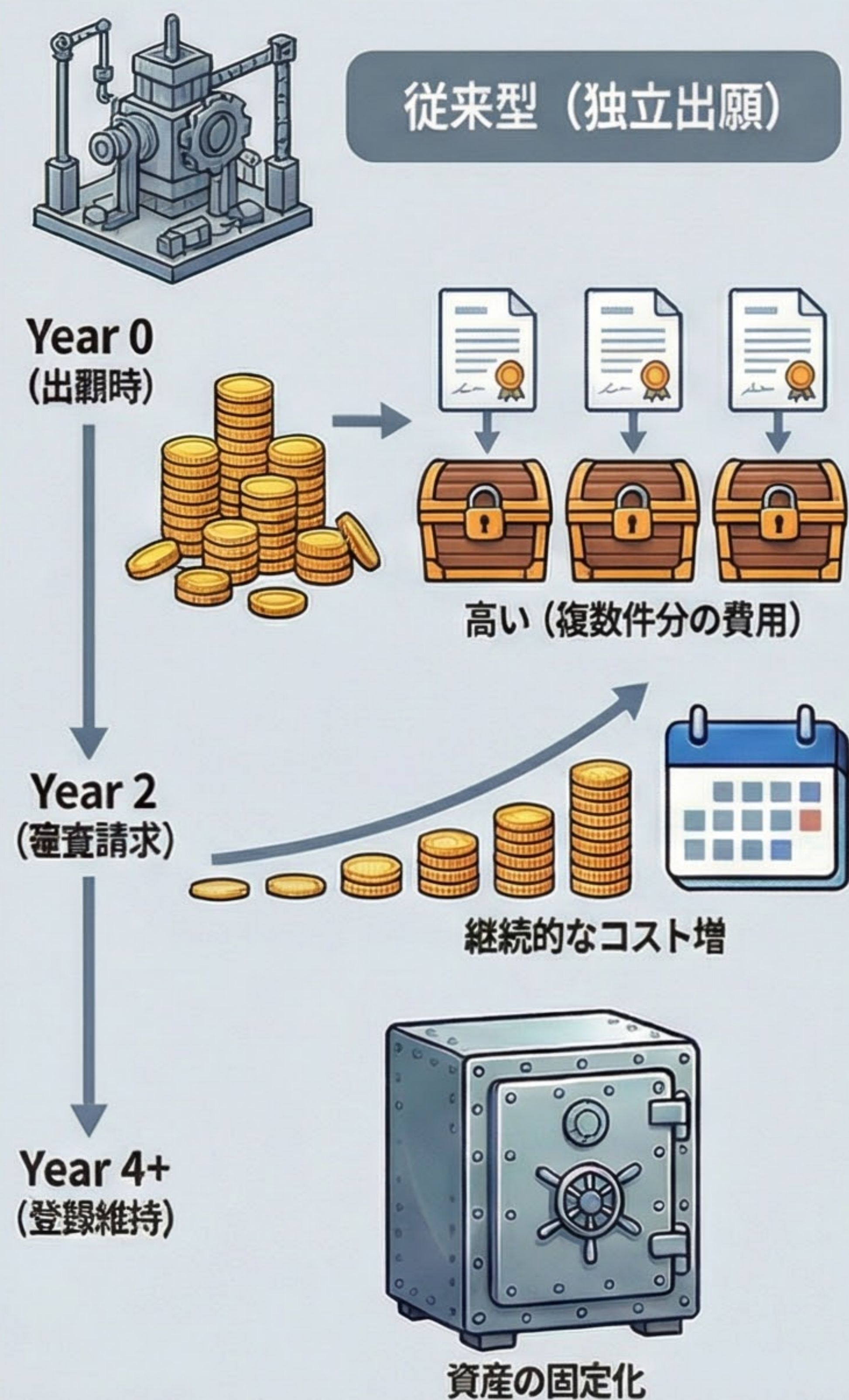


ベンチャー成長を加速させる「動的知財戦略」：コストを抑え、価値を最大化する分割出願の活用法

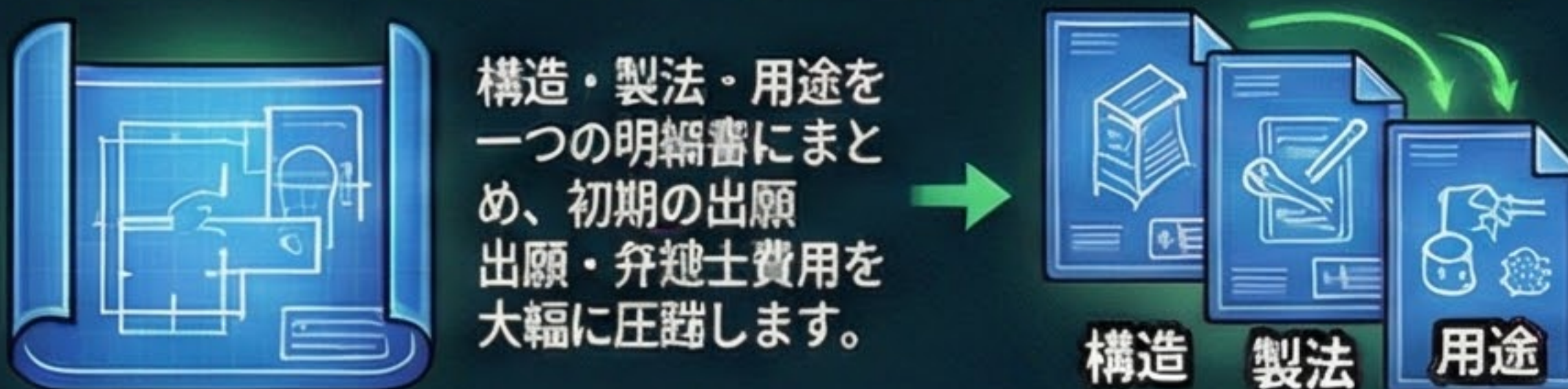
革新的な技術の「種」を持ちながら、資金が不足するベンチャー企業。本資料は、一つの出願に指数の発明を盛り込み、後に必要に応じて権利化する「動的分割戦略」を提案。そのコストメリットと日本特有の法的リスクを解説します。

戦略の転換：従来型モデル vs. 動的分割モデル

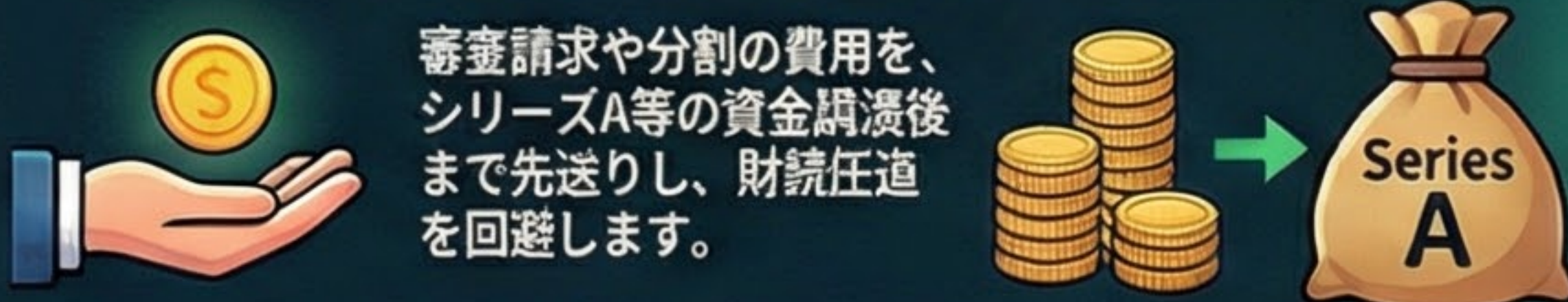


戦略の転換：従来型モデル vs. 動的分割モデル

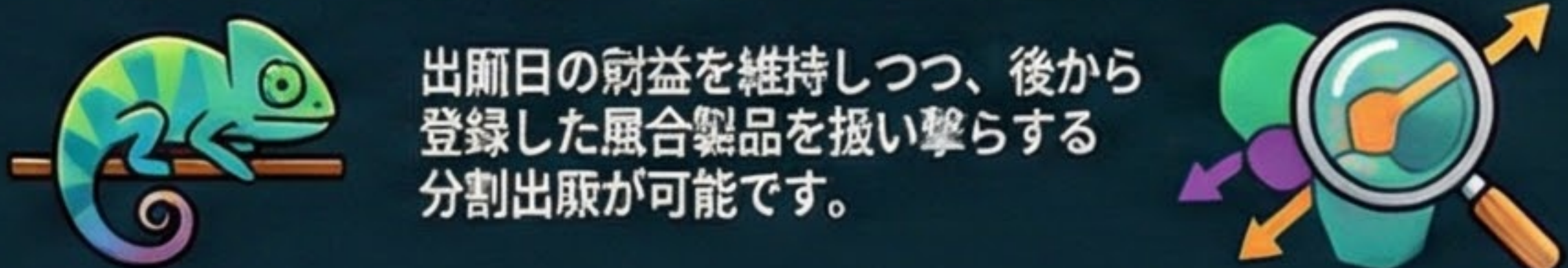
1回の出願で複数の発明を保護する「オムニパス方式」



シード期の知財コストを数百万単位で繰延可能



市場に合わせた「後出しジャンケン」の権利化



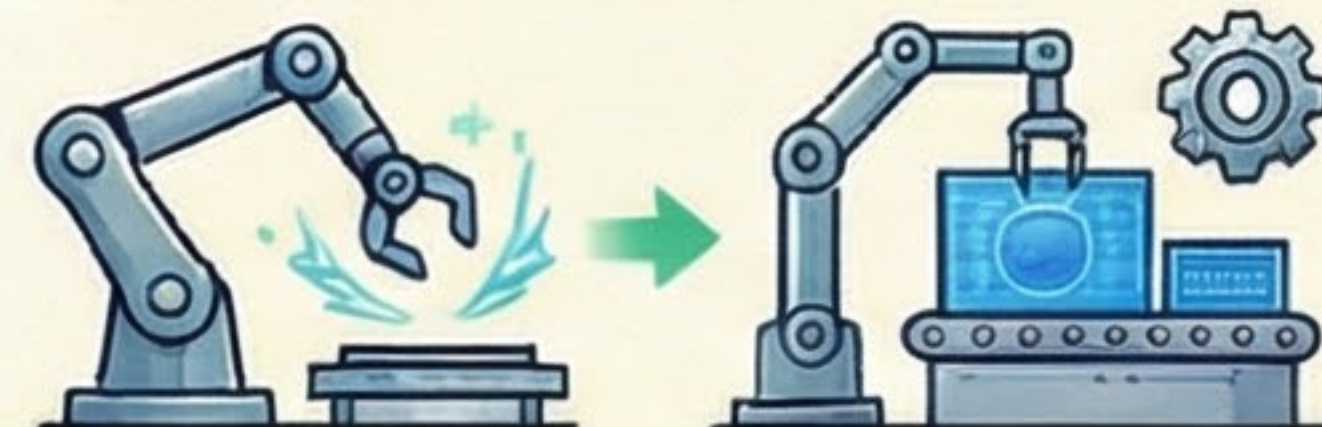
実行上の法的リスクと成功のロードマップ

⚠ 日本特有の罠
「シフト補正の禁止」



開設地の渾い発明への書き換えは却下され、予期せぬ分割出願費用の発生を招きます。

📈 ディープテック・モノづくり領域
との高い親和性



開発期間が長く、リバースエンジニアリングのリスクが高い製造業で最大の効果を発揮します。

📍 経営降による「知財の棚卸し」と
減免制度の活用



事業のピボットに合わせ、中小企業向けの減免制度やスーパー早期審査を戦略的に併用します。

戦略の転換：従来型モデル vs. 動的分割モデル

多面的戦略（分割活用）

